

## 当センターのモデルと試算例について

## マクロモデル分析

## A．モデルの基本構造

- 1) 日本経済のモデルである（海外は対象外）
- 2) 通常的需求決定型ではなく、経済の供給サイドもモデル化している
- 3) 需給ギャップの変動とインフレ率の関係を分析できる
- 4) 短期予測よりは 5 年 - 10 年という長期での変動分析を念頭に置いている
- 5) 方程式数は現在、約 1 2 0 本。

## B．試算例

エネルギー価格（含む炭素税や排出権のオークション）が上昇した場合

- 6) 企業、家計の所得・支出にどんな影響が及ぶか < 需要面や価格面への影響 >  
（例えば、自動車保有台数なども推計可能）
- 7) エネルギー利用量が減ることで潜在成長率・生産性がどう変わるか < 供給面 >  
（モデルの生産関数に対する修正が必要になる可能性がある）
- 8) 日本（先進国）だけが負荷を追った場合、貿易にどんな影響が出るか  
（モデルの貿易ブロックの拡充が必要になる可能性がある）
- 9) 以上がエネルギー消費、CO<sub>2</sub>にどうフィードバックするかの推定。
- 10) 政府による炭素税収の支出方法（減税や歳出増）による影響の分析

C．モデルの主要項目 概念図（次ページ）

## ➤ 内生変数群（モデルのアウトプット）:

GDP / 潜在 GDP / 消費 / 設備投資 / 輸出 / 輸入  
CPI / 賃金 / 法人所得 / 失業率 / 財政収支 / 経常収支  
エネルギー需要 / CO<sub>2</sub> 排出量

## ➤ 外生変数群（インプット = 前提条件）

実質世界貿易 / 円相場 / 原油価格 / 財政支出 など

## D．他のモデルから提供を受けたい情報

- ・ 世界の成長率（自然体 + 原油高ケース 5 0 ドル刻みなど）
- ・ 非化石燃料の見通し（自然体 + 原油高ケース 5 0 ドル刻みなど）

## 貿易面・産業別分析

- 産業連関や G T A P（一般均衡モデル）などの利用を検討
- 主要産業別収益に対するインパクトの推計

日本経済研究センターの年次マクロモデル（概念図）  
 （主な因果関係のみを記述、エネルギー関連部分は予定）

□ = 内生変数      □ = 外生変数

